

# 『落とし物屋さん』

作 笠羽流雨

《登場人物》

佳代子(25、女)……カヨコ。会社員。

環(28、女)……タマキ。佳代子の先輩で会社の上司。

店主(50代の雰囲気、男)……夢の中に出てくる「落とし物屋さん」の店主。正体は悪魔。

ムギ……年齢、性別の指定はない。元が子犬なので、10歳前後の少年・少女の雰囲気の声が望ましい。

SE カモメの声。

SE 波の音。

SE 走る足音。

001 ムギ

こっち、こっち！

002 佳代子

ねえ、まって、ねえ！

003 ムギ

はやく。あはは。

004 佳代子

まっつたら。

005 ムギ

こっちだよ、こっち、こっち！ こっち、こっち！ (声は消え入ってゆく)

006 佳代子

まって、はあ、はあ。

SE 海風の音。

007 佳代子

あれ？ どこだろ、この道。……知らない風景なのによく知っている気がする。

SE 遠くで子供たちの笑い声。

008 佳代子

あの白い鳥はカモメだ。潮の匂い。遠くで子供たちが笑ってる。あの声は……あ、分かった……。ここ、昔住んでいた街だ。

「落とし物屋さん」

2. 最初の朝

SE 目覚まし時計の音。

SE 目覚まし時計を止める音。

009 佳代子

ふああ。

SE 布団の中でもがく音。

010 佳代子

夢？

011 佳代子(M)

それから私は毎晩同じ夢を見るようになった。夢に出てくるのは決まって小学生の頃に半年だけ住んでいた海辺の街。長く住んでいたわけじゃないから大した思い出はない。でも、海沿いの遊歩道だけはお気に入りで、私はよく、ここでムギと散歩をしたものだ。ムギは当時飼っていた子犬。凄く寂しがり屋で、でも優しい、私の唯一無二の相棒だった。ムギは……ムギは、もういない。

3. 落とし物屋さん

SE カメメの声。

SE 波の音。

SE 歩く足音。

012 佳代子

また同じ夢？

013 佳代子(M)

その夜、私はまたいつもの夢の中を歩いてきた。いつもと違うことと言えば、その日は少し疲れていたこと、翌日が会社の休日だったので目覚ましをかけていなかったことくらいだろうか。でも、そのおかげか、いつもは見えていなかった「夢の続き」を、私は見てしまったのだった。

SE 風と波の音。

014 佳代子

あれ？ こんなお店あったっけ？

015 佳代子(M)

不思議なお店だった。観光地の小さなお土産屋のような雰囲気。壁は白く塗られ、屋根は鮮やかなオレンジ色に輝いている。煉瓦で仕切られた小さな庭ではワスレナグサの青い花が咲き乱れていた。扉の左右の大きな窓には色とりどりのステンドグラスがはめ込まれていて、中の様子は見えない。私はなぜだか、とても懐かしい気分になって気がつくと思えば扉に触れていた。ダークブラウンの彫刻扉には筆記体の金文字でこう書いてあった。

**A Dream Within A Dream**

昔好きだった英語の詩のタイトルだ。

**A Dream Within A Dream**

……《夢の中の夢》けれど、作者の名前はどうしても思い出せなかった。

ここにいるよ。(消え入るような声で)

え？ 誰？

016 ムギ

017 佳代子

「落とし物屋さん」

SE 風の音。

018 佳代子

気のせいかな？ 誰かいますか？。

SE 扉を二度ノックする音。

019 佳代子

すみませ〜ん。誰かいますか？。

020 ムギ

独りぼっちは、さみしい。

021 佳代子

え？

022 ムギ

僕はここにいるよ。(耳元で囁くように)

023 佳代子(M)

その子どもの声を聞いた瞬間、私はとてつもなく不安な気持ちになって、胸がぎゅーっと締め付けられるのを感じた。この感覚は時々あるのだ。昔から忘れっぽい私にはこの不安はなじみ深いものだった。そう、これは忘れ物・落とし物をしたと気づいたときの感じなのだ。「あれ、私、家の鍵掛けたっけ？」「切符どこに入れたっけ？」「体育着忘れてた」「ハーモニカ忘れてた」「メガネどこ置いたっけ？」「メールの返信したっけ？」「確定申告いつまでだっけ？」「あれ、私、なに忘れていたんだっけ？」そんな不安が一遍にすべて押し寄せてきたような感覚。額からは冷たい汗が流れているようだった。

024 ムギ

ここにいるよ。

025 佳代子

うう、ああ！ うああ！

026 ムギ

見つけて。

027 佳代子

どこにいるのよ！！

028 ムギ

029 佳代子

「ムギ、に、いるよ  
だから、どうに！」

SE 扉を強く叩く音。

SE 扉の軋む音。

SE ドアベルの音。

いらつしやい。

うあああ！

どうなさいました？

え？ ああ、あ、すみません。

ようこそ。ずいぶんあわてていらつしやるようですが、どうかなさいましたか？

ええつと、このお店の前で突然声が聞こえて、それで、私その声絶対知ってるんです。

私、その声の主を探さなくちゃならなくて。なんて言えはいいか……。

なるほど。それでうちへご来店くださつたと。声の主、見つかるといいですね。

はい……。

ちよつと探してみましよう。ああ、そちらの椅子へどうぞ。

どうも。

あなたがその声の主を覚えているのなら、うちで取り扱ってるかもしれません。

取り扱ってる？

SE 棚をあさるがさがさという音。

「落とし物屋さん」

4  
会社

- 042 店主  
ええ、きつと見つかりますよ。うーん、どこだろうな。あれ、座らないんですか？
- 043 佳代子  
あの。
- 044 店主  
どうしました？
- 045 佳代子  
この椅子……。
- 046 店主  
ええ。
- 047 佳代子  
あの……これ、うちで昔使っていたやつじゃありません？
- 048 店主  
ああ、そうですね。
- 049 佳代子  
ええ、どうして？
- 050 店主  
そりやそうですね。だってここ、「落とし物屋さん」ですから。

- SE 社内の騒音。人々の話声や電話の音等。
- 051 環  
佳代子、佳代子、佳代子
- SE 社内の騒音が急速にフェードアウトする。
- 052 環  
佳代子！
- 053 佳代子  
うああっ、環先輩！ すみません！
- 054 環  
いや、別に謝ることないんだけどさ。寝てた？ (笑いながら)

055 佳代子  
056 環  
057 佳代子  
058 環  
059 佳代子  
060 環  
061 佳代子  
062 環  
063 佳代子  
064 環  
065 佳代子  
066 環  
067 佳代子  
068 環  
069 佳代子  
070 環  
071 佳代子  
072 環  
073 佳代子  
074 環

あ、いや、えっと。

もう12時だよ。そろそろ休憩はさも。

はい。

ねえ、知ってた？ 社員食堂、いま季節限定で特上海鮮定食だって！ 一緒に頼まない？ 奢るからさ。

あ、はあ。

あれ……佳代子、魚苦手だっけ？

あ、いやそういうんではなくて。

ん？ んん？

え、なんですか？

なんか君、元気がないな？

そうですかね。

なんか気になることでもあるって人の顔だよ。

環先輩って、人間観察能力高すぎですよ。

そうかな？……ほら、言っごらんささいよ。

へ？

あ、いやなんというの、何に悩んでるんだか知らないけど、大抵のことは誰かに打ち明けたほうが気が楽よ。

そうなんでしょうけどね。ちよっと、突飛というか……。

突飛な話、私は好きだよ。

他の人には内緒ですよ。

ええ、先輩に任せないさい。

「落とし物屋さん」

075 佳代子  
076 環  
077 佳代子  
078 環  
079 佳代子  
080 環  
081 佳代子  
082 環  
083 佳代子  
084 環  
085 佳代子  
086 環  
087 佳代子  
088 環  
089 佳代子  
090 環  
091 佳代子

夢、みるんです。

夢？

毎日、同じ夢。

うん。

夢の中で私、昔住んでいた海辺の街を歩いているんです。そうして、最後にはきまつて一軒のお店にたどり着く。

何のお店なの？

「落とし物屋さん」……つて言ったら笑いますか？

「落とし物屋さん」……自分がこれまで落としてきたものを逆に売ってるってこと？  
そうなんです。昔落としたハンカチとか、引越しの時にどこかへ行ってしまった椅子だとか。

不思議な夢だね。それが気になって、あまり眠れてないってわけ？

はい。

まあ、気持ちは分かるな。うん。眠れないのは辛いね。あ、でも、こういうのはなんだけどさ、逆に楽しんでみればいいんじゃないの？

え？

だって、そんな夢ワクワクするじゃん。ねえねえ、その夢の中でさ、その「落とし物」つてやつを買ってみたことはあるの？

いえ、ないです。いつもいるだけ。

夢の中でウインドーショッピングかあ。買ってみたら面白いのに。  
でも、どうやって買えばいいんだろう。私、多分夢の中で財布も鞆も何も持ってないんです。

5 椅子の購入

092 環  
093 佳代子  
094 環  
095 佳代子  
096 環  
097 佳代子  
098 環  
099 佳代子  
100 環  
101 佳代子  
102 環

要するに、夢の中でその「落とし物屋さん」の店主を言いくるめればいいんですよ。ツケにしてくださいって言えばいいのよ。  
なるほど。やってみます。あ、ちょっと待ってくださいね。  
ん？ 何してんの？  
環先輩の言ったことメモしようと思って。  
真面目だねえ。  
あれ、ペンどこ入れたっけ？ あれ？ ……あれれ？  
佳代子は面白いなあ。はい、これ。私のペンあげる。  
え？ ああ、申し訳ないです、ああ。  
それを言うなら「ありがとうございます」ね。  
……ありがとうございます。  
どういたしました。

SE 波の音。

103 店主  
104 佳代子  
105 店主  
106 佳代子

で、こちらの椅子でよろしんですか？  
はい。気に入っていた椅子なので。あ、でもですね、えっと、いま手持ちがなくてです  
すね、なので「ツケ」でお願いします。  
ツケ……はあ。  
「ツケ」です。あの、はい。……駄目でしょうか？

「落とし物屋さん」

## 6 異変の朝

- 107 店主  
108 佳代子  
109 店主  
110 佳代子  
111 店主  
112 佳代子  
113 店主

まあ、いいでしょう。でも、お代は必ずいただきますからね。  
ありがとうございます！  
あ、じゃあここにサインだけ。  
はい。あれ、ペンどこだっけ。  
ペンがないなら声に出していただくだけで結構ですよ。はっきり言葉で言う、それだけでも契約は成立するんです。  
そんなのでいいの？  
ええ。こちらの世界には、こちらの世界のルールがありますから。

SE 目覚ましの音。

SE 目覚ましを止める音。

- 114 佳代子

ふあああ。ねむむ。メガネくくメガネくあった。……え？

- 115 佳代子(M)

瞬間、私は、声が出せなくなりました。カーテンの隙間から差し込む朝の光に照らし出された部屋の一角で、夢の中で買った椅子がひっそりと佇んでいたのだ。夢と現実の混合。起こってはいけないことが起こってしまった、そんな感じがした。

## 7 ムギ

SE 波の音。

116	店主
117	佳代子
118	店主
119	佳代子
120	店主
121	佳代子
122	店主
123	佳代子
124	店主
125	佳代子
126	店主
127	佳代子
128	店主
129	佳代子
130	店主
131	佳代子
132	店主
133	佳代子
134	店主

クーリング・オフ？　なんでまた。気に入っていたんじゃないんですか？  
 本当にお買いえちやうとは思ってなくて。

そりや、買ったんだから買えちやうでしょ。大体、これは訪問販売じゃないですしねえ。特定商取引法というクーリング・オフは適用外ですよ。

夢の世界にも法律とかあるんだ。

なきや困るでしょ。

じゃあ、私が椅子のお代を払えない場合は……どうなるんですか？

ああ、お代ならもういただきましたよ。

え？

そうだ、言ってみせませんでしたね。ここでもものを買うときは現実の世界のものと交換するんですよ。あの椅子はね、ほら、これ。

ああ！　私のペン！

これで、「支払い済み」というわけですね。

な、なるほど。

このペン、いい書き心地ですねえ。

それ、尊敬する先輩から頂いたものなんです。返して貰えませんか。

返すったって、そりや無理ですよ。こつちも商売なんですね。

じゃあ、買い……。

買い？

いったん、落ち着いて考えます。

それがいいでしょうねえ。ああ、そうだ、初めてご来店されたときのこと覚えてらっ

「落とし物屋さん」

135	佳代子
136	店主
137	佳代子
138	店主
139	佳代子
140	店主
141	佳代子
142	店主
143	佳代子
144	佳代子
145	店主
146	佳代子
147	店主

しゃいます？

え？ ああ、いつでしたっけ。

半年前くらいかなあ。あの時、あなた探し物をしていましたよ。

そうでしたっけ？

すごい勢いで扉を叩くもんだから、こっちもびっくりしたんですよ。

すみません。

それでね、あのときあなたが探してたのって……この子じゃありませんか？

SE 子犬の声。

ムギ？ ムギなの？ ねえ、ムギ！！ どこ行ってたのムギ？ ずっと探してたんだ

よムギ。ムギ……ああ、ムギ〜！

良かったですね、再会できて。

もう見つからないと思ってた。ありがとうございます。ありがとう、ずっと探してたの。

SE 子犬の声。

ムギ、大好きだよムギ。お家へ帰ろうね。ムギ。

お家へ帰る？

ええ。……もしかして、ムギもここの売り物なんですか？

察しが良くて助かります。

8. 迷える魂

148 佳代子  
149 店主  
150 佳代子  
151 店主  
152 佳代子  
153 店主

SE 子犬の声。

何をあげてもいい。買います。絶対に。

やめておいたほうがいいですよ。

買うって決めたら買うのよ。

でもねえ。

私は絶対ムギを取り戻すの。必要なら私の持ち物全部あげる。

あーあ……。ふふ、じゃあ、この契約書にサインお願いします。

SE 強い筆圧でボールペンの先が紙の上を滑る音。

154 環(M)

会社の後輩の佳代子が姿を消して、ひと月が経った。どこか抜けたところはあったけれど、真面目で可愛いやつだった。仕事は相変わらず忙しかったから、私は仕事に集中することで自分を保とうとした。佳代子のいた空の席は彼女が存在したことの唯一の証拠みたいに思われて、この席が空のままであり続けてほしい、そんなことを思いつつも、むしろ忘れてしまいたいという自分もある。佳代子は私と最後にあった日、奇妙な夢の話をしていた。彼女は私に何を伝えようとしていたのだろう。あのとき、彼女に対して、私はなんと声を掛けるべきだったのだろう。そんなことを考えて日々を過ごしていたら、ある夜、話に聞いていた「落とし物屋さん」を夢に見た。

「落とし物屋さん」

155 環

A—Dream—Within—A—Dream (たどたどしく読み上げる)

……《夢の中の夢》？ 何の言葉だろう。

SE 扉を二度ノックする音。

SE 扉が軋む音。

SE ドアベルの音。

156 店主

いらつしやいませ。

157 環

あの、ここは何を売っているお店なんですか？

158 店主

ここですか？ ここは「落とし物屋さん」ですよ。落としたり、なくしたりしてしまったものを売ってますね。

159 環

ほんと……見たことあるものばかり……。あれ、これ佳代子にあげたペン。

160 店主

ああ、あなたが「先輩」でしたか？

161 環

先輩？ ねえ、佳代子のこと何か知ってるの？ あの子はいまどこにいるの？

162 店主

どこだろうな、まあ、こちら側とだけ言っておきましょうか。

163 環

こちら側？

164 店主

私がいる側ですよ。

165 環

あの子を連れ戻したいの。そのためだったらなんでもするわ。

166 店主

いやあ、おすすめしませんよ。契約というのは一度結んだらそう簡単に破棄できないんだから。

167 環

ごちゃごちゃうるさいわね。

168 店主

しょうがないなあ。本当になんだってするんですね。

169	環
170	店主
171	環
172	店主
173	環
174	店主
175	環
176	店主
177	環
178	店主
179	店主

なんだってするわ。魂だってくれてやるわよ。

……あーあ、言っちゃった。（一瞬、急に態度が変わって嬉しそうに）  
ねえ、ところであなたは誰なの？

見ての通り、「落とし物屋さん」の店主です。

そうじゃなくて、あなたも今の佳代子と同じで《こちら側》の人間なんですよ。どこから来た人なんだろうと思って。

うーん、ちよつと違いますね。

え？

私は確かに《こちら側》に属してはいますけどもね、人間じゃないんですよ。いや、お恥ずかしい。

人間じゃない？

ええ、これは人間の側の呼び方ですがね、皆さん私を「悪魔」と呼んでおります。

SE 環が床に倒れる音。

おやすみなさい……。

**Is all that we see or seem / But a dream within a dream?**

《見るもの見えるものの全ては所詮、夢の中の夢に過ぎないのでしょうか？》ああ、可哀そうな魂よ。いつか、持ち主が見つかるといいですね。

〈了〉

【引用文献】

Edgar Allan Poe, *A dream within a dream*, 1849.(訳はオリジナル)

「落とし物屋さん」